研修の感想とこれからの展望

水戸医療センター 薬剤部 庄司 航

出身大学：帝京大学薬学部（平成29年）

興味のある分野：救命救急

今年度国立病院機構に入職し水戸医療センターに配属されました、庄司航と申します。

大学在学中には創薬化学研究室に所属しており、実験をしながら医薬品の構造の研究をしていました。医薬品の開発にも興味があったのですが、臨床現場で患者さんや医療従事者とコミュニケーションをとり医療現場で直接介入したいと思い病院薬剤師の道を志しました。

入職してから2回ほど国立病院機構の研修があり、1度目はコメディカルの研修で2度目は薬剤師のみの研修に出席させていただきました。コメディカルの研修は、医師と看護師以外の医療職種が集まり、グループワークなどを行いました。これ通してコミュニケーションや他職種の連携をどう取っていくかを学ぶことができ、それぞれの職種の異なる視点からの意見が参考になりました。また様々な職種が集まるため、それぞれの職種がどのような業務を行っているのか知ることができたよい機会になったと感じています。

薬剤師のみの研修では、医療安全についてや疑義照会の際の注意点などの講義とグループワークを行いました。医療安全の講義では、実際にあったインシデント事例を基に問題点を知ることができ、調剤業務において自分のクセを把握することや他の医療従事者とのコミュニケーションをとる

ことによりミスを未然に防ぐこともできると学んだため、積極的に実践していこうと思います。また、疑義照会をする際の様々な伝え方（CASやSBARなど）があることを知り、緊急度や正確な内容をどう伝えればよいのか実践的に活用できるスキルを身につけられたと思います。

どちらも今後の業務に役立つ研修であったため、学んだことを生かして日々の業務に臨んでいきたいと思っています。

現在、病棟業務は循環器病棟で初回面談や服薬指導を行っています。主に検査の術前や退院時の服薬指導を行っているのですが、患者情報の取得や患者個別の指導をすることに関して難しさを感じております。

私は、救急医療や災害医療に興味を持っています。水戸医療センターは3次救急の病院であり救命センターで薬剤師が病棟業務を行っているため、今後は救命病棟での病棟薬剤業務に携わっていければよいと考えております。救命病棟では多様な疾患の患者がおり、それぞれの疾患の病態はもちろんのこと、薬剤の配合変化や点滴ルートの確認など幅広い知識が必要とされるため日々の自己研鑽し知識を深めていきたいと思っております。